

トホクのタマネギ栽培方法

発芽適温：15～25℃ 生育適温：15～25℃

土壌酸度：pH6.5～7.0 連作障害；少ない

1. 作物特性

タマネギには熟期別に早生種から晩生種まで種類があります。それぞれの品種の熟期の違いをよく理解して、タネまき時期を間違えないことがポイントです。また早まきして植えつけまでに大苗になった場合や、越冬中の肥料不足はトウ立ちを引き起こします。また近年は暖冬傾向ですから、タマネギ栽培に大敵のべと病の予防も重要です。冬の間に病気になっている株を抜き取り、農薬を適切に使って防除するなどの対策が必要になってきています。

2. タネまき

タネまき床には 1 m²当たり堆肥 2.5kg、苦土石灰 100g、化成肥料 60g を施し、良く耕しておきます。約 10cm の間



隔で深さ 1cm 弱程度のまき溝を作り、タネは約 5mm～1cm の間隔でまきます。

タネまき後約 1 ヶ月後に 1 m²当たり 40g 程度の化成肥料の追肥を行い、条間を中耕します。

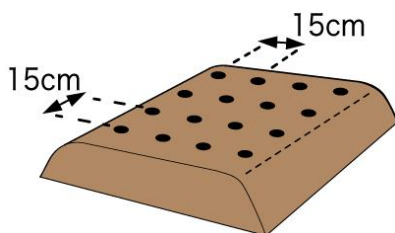


3. 植えつけ・管理

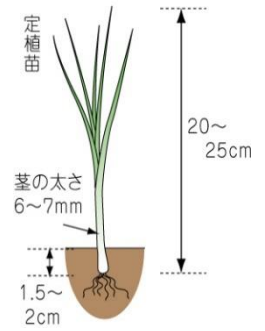
タネまき後 55～60 日頃に植えつけます。



長さ約 20～25cm、茎の太さ 6～7mm 程度の苗を選びます。太すぎる苗はとう立ちの危険性があるので植えないようにします。



浅植えだと根の活着が遅れたり、霜に持ち上げられたりする可能性が大きく、逆に深植え過ぎると苗が傷んだり、酷ければ枯死する可能性があるため、茎の部分が 1.5～2cm 程度が土に隠れる程度で植えつけます。



早生種は 12 月と 2 月に、中生～晩生種は 12 月と 3 月に、それぞれ化成肥料を 1 m²当たり 25g 施します。

4. 収穫

全体の 7～8 割の茎葉が倒れたら収穫適期です。雨の日は避け、数日間晴天の続く日を選んで収穫し、数日間畑に転がして乾燥させ、取り込みます。



中生から中晩生の品種は貯蔵性がありますから、日の当たらない風通しの良い場所に保存します。



●栽培例

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地		●	●									
中間地												
暖地												

(福島～北海道南部) (翌年)

●まく時期 ●収かく時期